

第2節 メディアとの接触

1. パソコンの利用（1）

この5年間で、小学生のパソコン利用が「家で」「学校で」とともに減った。中学生は「家で」の利用が増えたが、「学校で」の利用は減った。高校生の利用は、「家で」「学校で」とともに増えた。各学校段階によって、5年間の利用状態に変化がみられる。

私たちの仕事生活、家庭生活においてパソコンはもはや物珍しいものではなく、すでに使いこなせて当たり前となっている。2004年から5年を経た2009年の子どもたちのパソコン利用状況について、データをみていこう。

質問は、「あなたは、1週間にどれくらいパソコンを使いますか」について、「家で」と「学校で」の利用状況をたずねた。選択肢は、「週に5日以上」「週に3～4日」「週に1～2日」「ほとんど使わない」「家にはない（家での質問のみ）」とした。各学校段階別に2時点での結果をみたものが、**図2-2-1**（「家で」）と**図2-2-2**（「学校で」）である。

◆小学生の利用が減少

図2-2-1をみると、まず、各学校段階とも「家にはない」という回答割合が減った。た

だし、小学生15.8%、中学生10.9%、高校生9.3%と1割前後は「家にはない」家庭があることには注意しておきたい。利用している（「週に5日以上」+「週に3～4日」+「週に1～2日」）の回答結果をみていくと、2004年から2009年にかけて、小学生では42.7%→39.6%と利用が減った。一方、中学生では49.6%→58.4%、高校生では46.3%→56.2%と増えた。中・高校生は、家でパソコンを利用している。

図2-2-2についても、利用している割合の2時点の変化を学校段階別にみていくと、小学生では25.2%→16.2%、中学生では22.2%→12.1%と減った。家庭に比べて、多くの子どもたちは学校ではパソコンを利用していない。一方、高校生では37.3%→43.7%と増えた。高校では4割の生徒がパソコンを学校で利用している。

図2-2-1 家でのパソコン利用状況（学校段階別、経年比較）

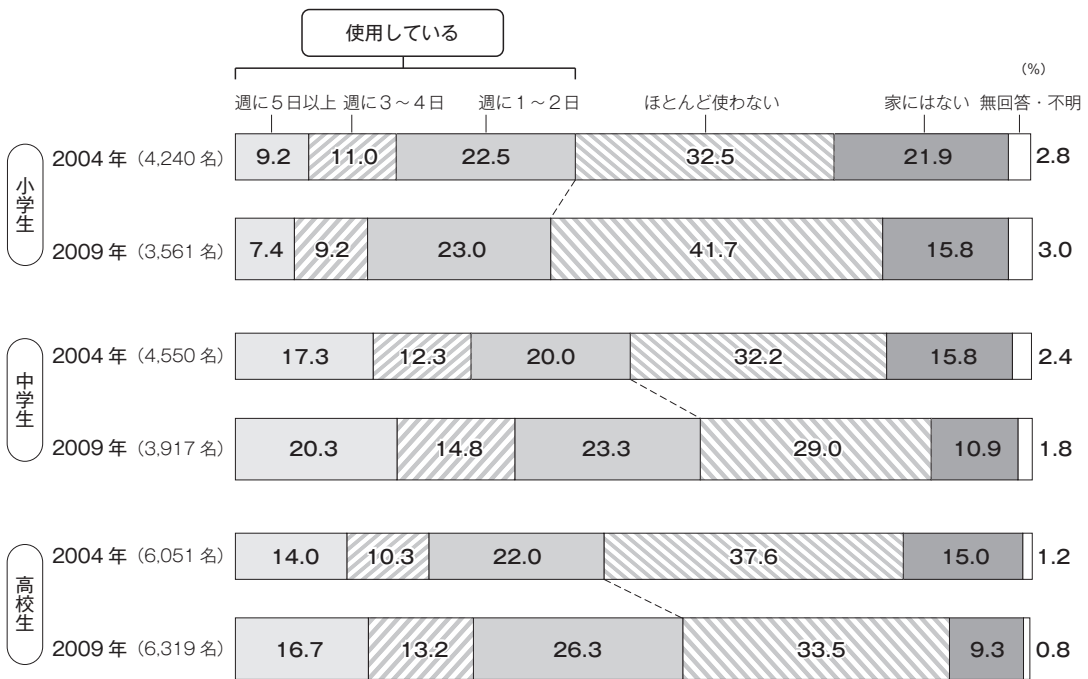
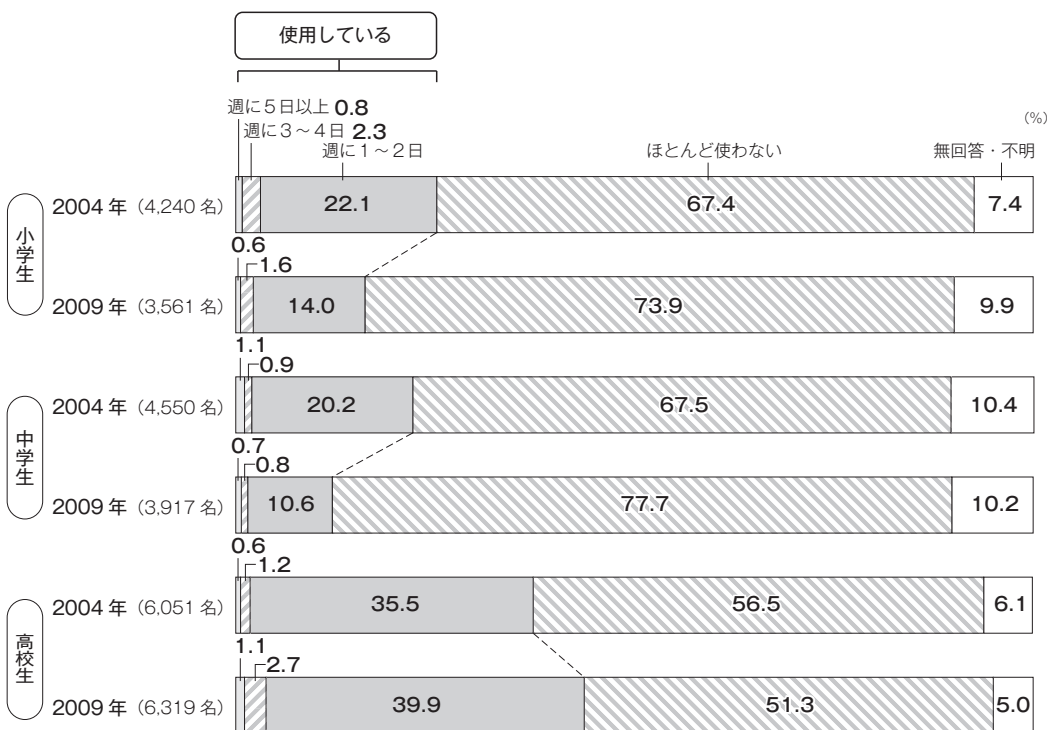


図2-2-2 学校でのパソコン利用状況（学校段階別、経年比較）



第2章 毎日の生活の様子

◆小・中学校での利用低減要因

5年の間に、小学生は「家で」も「学校で」もパソコンの利用が減った。中学生は「家で」は増えたが、「学校で」は減った。高校生は、「家で」も「学校で」も利用が増えた。小・中学校でパソコンが利用されていない背景として、学校側の活用方針が考えられる。教師がパソコンを活用させる機会を与えなければ、子どもが利用しなくなる。総合的な学習の時間で調べ物をする機会が減ったり、パソコンを自由に使う余裕のある授業時間が減ったりしているのかもしれない。また、学内予算としてパソコンに設備投資がなければ、旧型モデル・古いソフトウェアの利用を継続せざるをえない。学校でのパソコン活用への魅力が全体的に不足している可能性も考えられる。

◆高校生のパソコン利用が増加

表2-2-1では、2時点の各学校段階での成績（小・中学生）・高校偏差値層（高校生）別に利用状況をもてみた。「家で」は、小学生の成績上位層に利用が減った（2004年50.1%→2009年43.6%、以下同）。高校生では、進学校の「家で」の利用が増えた（53.5%→64.3%）が、「学校で」は変わらない。中堅校、進路多様校では、「家で」も「学校で」も利用が増えた。今回、進路多様校での「学校で」の利用が6割となっている。学校の授業で使う機会が多くなったのだろう。

表2-2-1 家・学校でのパソコン利用状況（学校段階別・成績／高校偏差値層別、経年比較）

（%）

	小学生					
	上位		中位		下位	
	2004年 (1,257名)	2009年 (1,139名)	2004年 (1,344名)	2009年 (1,227名)	2004年 (1,259名)	2009年 (972名)
家で	50.1	43.6	42.1	38.5	36.7	35.6
学校で	28.1	17.0	25.9	16.4	25.8	13.9

	中学生					
	上位		中位		下位	
	2004年 (1,581名)	2009年 (1,352名)	2004年 (1,485名)	2009年 (1,199名)	2004年 (1,412名)	2009年 (1,232名)
家で	54.9	62.9	52.9	60.9	41.0	64.7
学校で	23.8	13.5	20.7	12.4	22.0	11.2

	高校生					
	進学校		中堅校		進路多様校	
	2004年 (2,494名)	2009年 (2,976名)	2004年 (2,364名)	2009年 (2,156名)	2004年 (1,193名)	2009年 (1,187名)
家で	53.5	64.3	43.3	51.7	33.6	44.3
学校で	40.3	41.2	27.2	38.1	55.5	60.2

注) 「週に5日以上」 + 「週に3～4日」 + 「週に1～2日」の%。

2. パソコンの利用（2）

子どもたちがパソコンを使ってすることは主に「ゲームをする」「インターネットで趣味や遊びのことを調べる」「インターネットで勉強のことを調べる」である。ただしこの5年の間で「ゲームをする」は大きく減少している。

◆パソコンの利用形態

子どもたちは、パソコンを具体的にどのようなことに利用しているのか。「パソコンは、どのように使うことが多いですか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○をつけてください」とたずねた。選択肢は、「文章を書く」「絵を描く」「ゲームをする」「テレビやDVDを見る」「インターネットで勉強のことを調べる」「インターネットで趣味や遊びのことを調べる」「学習ソフトを使って勉強する」「ホームページやブログを作る」「電子メールをやりとりする」「ネットショッピングをする」「その他」の11項目である。

◆ゲームに使う小学生

小学生の2004年から2009年の2時点の回答結果をみたものが、図2-2-3である。図は2009年の回答割合の多い順に並び替えてある(図2-2-4、図2-2-5も同様)。2009年の小学生は、「ゲームをする」(51.9%)、「インターネットで趣味や遊びのことを調べる」(42.0%)、「インターネットで勉強のことを調べる」(34.1%)をしている。しかし、これら3項目は、2004年と比べて、現状維持もしくは減っている。「絵を描く」「文章を書く」も減った。増加した項目は「テレビやDVDを見る」(2004年16.5%→2009年24.0%、以下同)である。

◆趣味や遊びのことを調べる中学生

中学生の2004年から2009年の2時点の回答結果をみたものが、図2-2-4である。2009年の中学生は、「インターネットで趣味や遊びのこ

とを調べる」(67.1%)がもっとも高い。これは2004年と比べて変化していない。ついで、「ゲームをする」(39.5%)があがるものの、2004年から10ポイントほど減っている。「テレビやDVDを見る」(16.5%→30.9%)、「ホームページやブログを作る」(7.5%→14.9%)は増えているが、「インターネットで勉強のことを調べる」「電子メールをやりとりする」「文章を書く」「絵を描く」は減っている。

◆高校生も趣味や遊びのことに利用

高校生の2004年から2009年の2時点の回答結果をみたものが、図2-2-5である。2009年の高校生は、「インターネットで趣味や遊びのことを調べる」(72.8%)がもっとも高い。この傾向は中学生と同様である。ついで、「ゲームをする」(24.9%)、「インターネットで勉強のことを調べる」(24.5%)があがるものの、2004年と比べて減っている。小・中学生と同じく「テレビやDVDを見る」(16.6%→24.3%)が増えているが、「文章を書く」「電子メールをやりとりする」「絵を描く」は減っている。

◆インターネット以外の利用の多様化

パソコンにおけるインターネットでの趣味や遊びのことを調べるための利用は、2004年からほぼ変化しておらず、依然、回答比率は高い。全体的に動画利用は増えたが、ゲームや勉強ツールとしての活用は減っている。この減少の背景としては新しいデバイスとの住み分けがすすんだことが推測される。

図2-2-3 パソコンの使い方（小学生、経年比較）

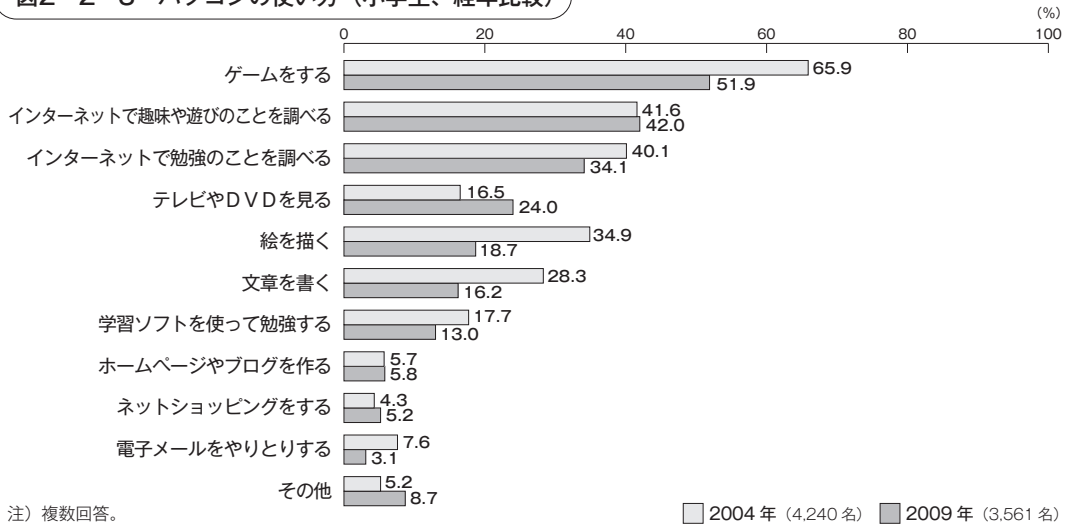


図2-2-4 パソコンの使い方（中学生、経年比較）

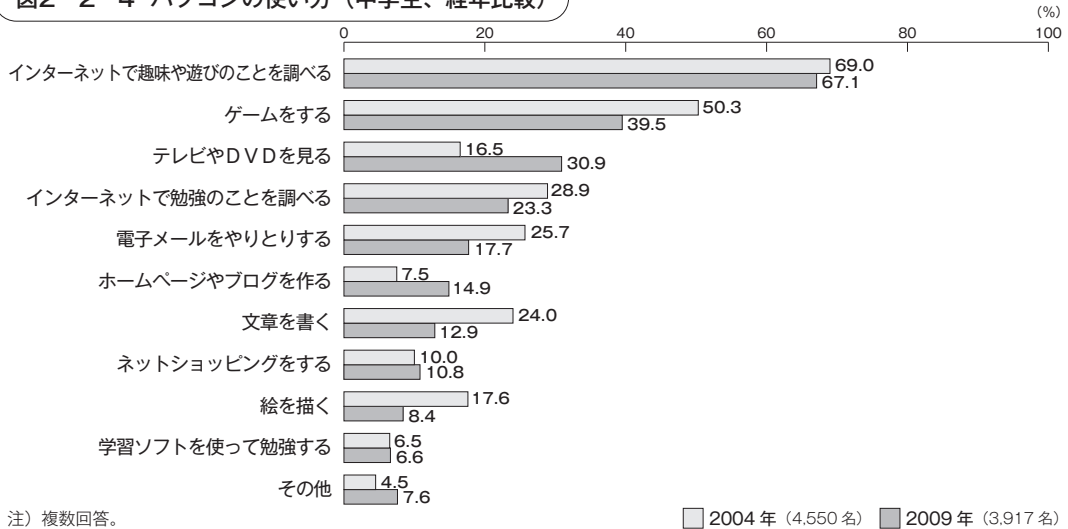
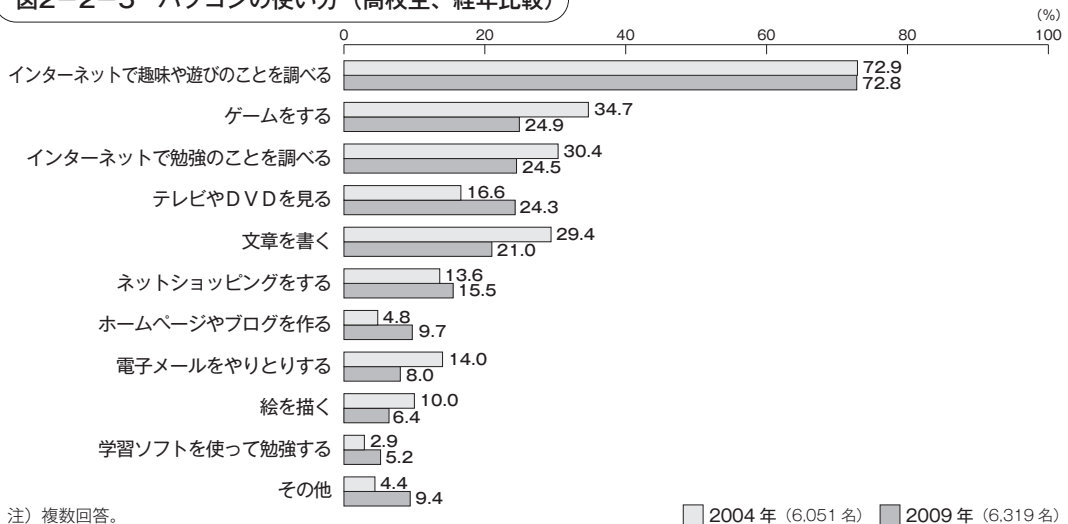


図2-2-5 パソコンの使い方（高校生、経年比較）



3. パソコンの利用（3）

子どもたちは、2004年調査結果と同じく「パソコンをもっと使いこなせるようになりたい」「パソコンを使うのが楽しい」と考えている。2時点の変化については、「インターネットの使い方についてのマナーやルールを知っている」の回答が増えた。

パソコンを使うにあたり、子どもたちの意識と行動はどのようになっているのか。そこで、「パソコンについて、次のようなことはあてはまりますか」として、「パソコンで調べたことについて親とよく話をする」「パソコンがないと今の生活が不便になると思う」「パソコンを使うのが楽しい」「パソコンをもっと使いこなせるようになりたい」「インターネットの使い方についてのマナーやルールを知っている」についてたずねた。選択肢は、「とてもそう」「まあそう」「あまりそうでない」「ぜんぜんそうでない」とした。

◆パソコンを使いたいと思う小学生

小学生の2004年と2009年の回答結果をみたものが、**図2-2-6**である。グラフでは「そう」「とてもそう」+「まあそう」の比率を示している（**図2-2-7**、**図2-2-8**も同様）。2時点とも「パソコンをもっと使いこなせるようになりたい」「パソコンを使うのが楽しい」の回答が7割を超えている。「インターネットの使い方についてのマナーやルールを知っている」が2004年と比べて増えた（2004年39.3%→2009年52.7%、以下同）。「パソコンで調べたことについて親とよく話をする」は2004年と変わらず4割弱、「パソコンがないと今の生活が不便になると思う」は2004年よりも減って約3割となっている。

◆ネットマナーやルールを知っている

中学生が増加

中学生の2004年と2009年の回答結果をみたも

のが、**図2-2-7**である。2時点とも「パソコンをもっと使いこなせるようになりたい」「パソコンを使うのが楽しい」の回答が、小学生同様7割を超えている。「インターネットの使い方についてのマナーやルールを知っている」が2004年と比べて増えた（51.4%→62.6%）。同様に、「パソコンがないと今の生活が不便になると思う」（48.2%→53.8%）、「パソコンで調べたことについて親とよく話をする」（18.3%→24.0%）は2004年よりも増えた。

◆パソコンがないと不便に感じる高校生

高校生の2004年と2009年の回答結果をみたものが、**図2-2-8**である。「パソコンをもっと使いこなせるようになりたい」が77.9%と高い。ついで、「パソコンを使うのが楽しい」が72.5%と2004年よりも増え、7割を超えている。「インターネットの使い方についてのマナーやルールを知っている」が、小・中学生と同じく、2004年と比べて増えた（55.0%→64.4%）。「パソコンがないと今の生活が不便になると思う」（43.5%→57.2%）が増えた。「パソコンで調べたことについて親とよく話をする」（13.7%→15.7%）は2004年同様、回答割合が低い。高校生ともなれば、親とパソコンについて話すことは少なくなる。

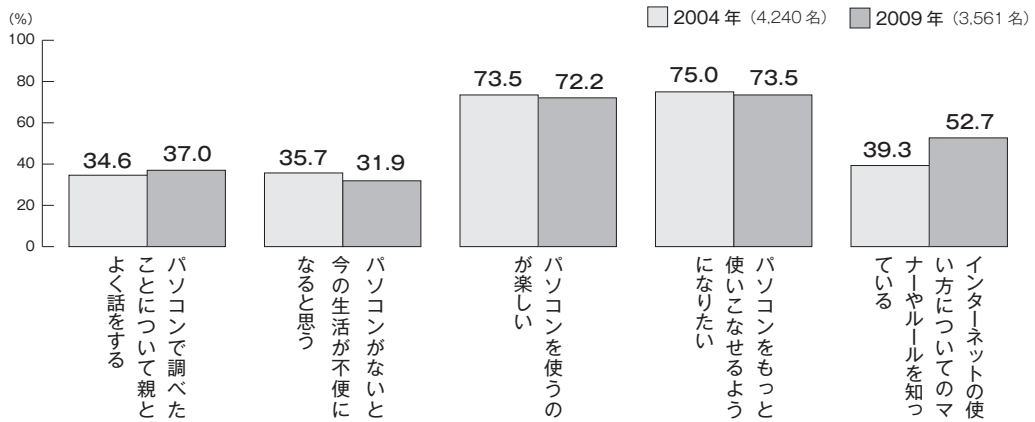
◆インターネット利用と指導

インターネットが日常的に使われれば、それだけトラブル・犯罪にも巻き込まれやすくなる。

「インターネットの使い方についてのマナーやルールを知っている」が増加したのは、家庭や

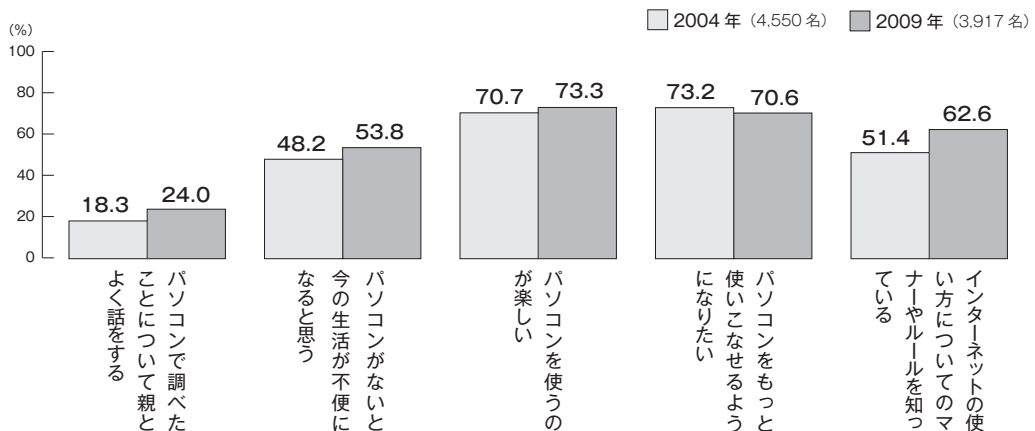
学校で、子どもたちに徹底した指導がなされている結果であろう。

図2-2-6 パソコンについてあてはまること（小学生、経年比較）



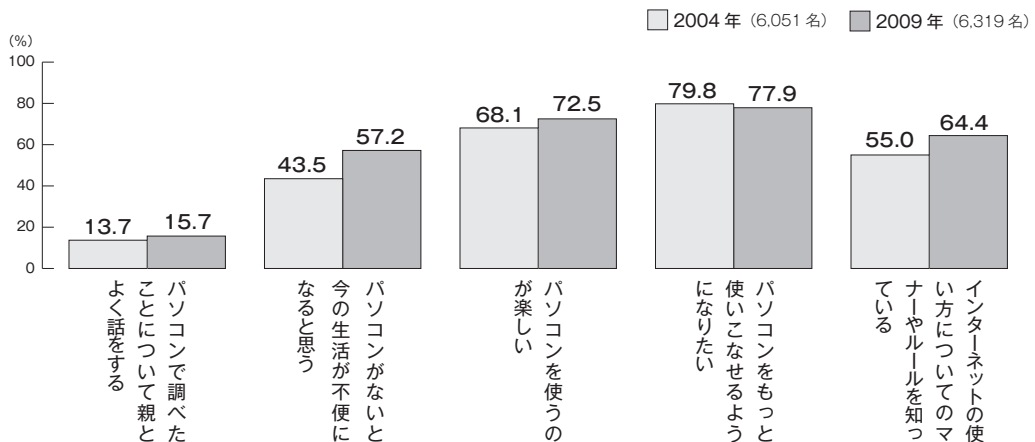
注) 「とてもそう」+「まあそう」の%。

図2-2-7 パソコンについてあてはまること（中学生、経年比較）



注) 「とてもそう」+「まあそう」の%。

図2-2-8 パソコンについてあてはまること（高校生、経年比較）



注) 「とてもそう」+「まあそう」の%。

4. 携帯電話の利用（1）

2009年の携帯所持率は、小学生26.2%、中学生50.1%、高校生94.8%となっている。2004年と比べて、すべての学校段階で所持率は増えている。また性別では、学校段階にかかわらず、女子の所持率が男子を上回っている。

大人にとって携帯電話（ケータイ）は必需品である。ケータイに触らずして、一日が送れないといっても言いすぎではないだろう。ケータイを持ち歩くことが当たり前となった今、子どもたちのケータイ事情はどのようなものなのだろうか。本項では、「あなたは携帯電話（ケータイ）を持っていますか」とたずね、「持っている」のかどうかを回答してもらった。携帯電話を「持っている」と回答した割合を携帯所持率として、結果をみていく。

◆携帯所持率

図表は略したが、2009年の各学校段階別の携帯所持率は、小学生26.2%（2004年は18.9%）、中学生50.1%（2004年は45.3%）、高校生94.8%（2004年は92.8%）である。小学生ではおよそ4人に1人、中学生では2人に1人、高校生では10人に9人がケータイを持っていることになる。2004年と比べても、各学校段階において携帯所持率は増えた。以前よりも、早い段階から携帯電話を所持する傾向がみられる。

◆携帯所持は中1生と高1生の時に拡大

2時点間について、各学年別の携帯所持率を比較したものが、図2-2-9である。2009年の小4生の携帯所持率は25.2%である。2004年の17.0%よりも増えた。その後、急激に所持率が上昇するのが、中1生である（43.0%）。こちらも2004年の所持率（35.0%）よりも増えた。中学生では、学年が上がるごとに所持率も増加

する（43.0%→50.4%→57.1%）。2009年の中3生では、約6割が携帯電話を持つようになる。その後、高1生で95.7%が所持するようになり、多くの生徒がケータイのある生活をしていることがうかがえよう。

ケータイを持つ時期として、中1生が第1のピーク、高1生が第2のピークといえる。新しい学校段階（もしくは上級学年への進級）に移行するときに合わせて、携帯電話を持ちはじめの子どもの多いようである。

◆女子に多い携帯所持

2時点間の携帯所持率について、学校段階別でさらに男女別にみたものが、図2-2-10である。2009年の小学生女子の携帯所持率が30.5%と小学生男子の21.9%よりも多い。女子の所持率は、2004年の21.6%と比べて増えた（2004年の男子の所持率も16.3%で増えている）。中・高校生についても、携帯所持率は、男子よりも女子のほうが多いことがわかる。2009年の中学生女子の携帯所持率は56.4%（男子は44.1%）、2009年の高校生女子の所持率は96.9%（男子は92.9%）である。こちらも2004年の男女の携帯所持率と比べ増えた。ケータイは女子が早くから所持する。また、高校生までにはほぼ大多数が所持していることもわかる。

子どもたちも早期からケータイを身につけるようになってきた。生まれたときからケータイが存在する世代としては、身につけるのが早いのも当然のことかもしれない。

図2-2-9 携帯所持率（学年別、経年比較）

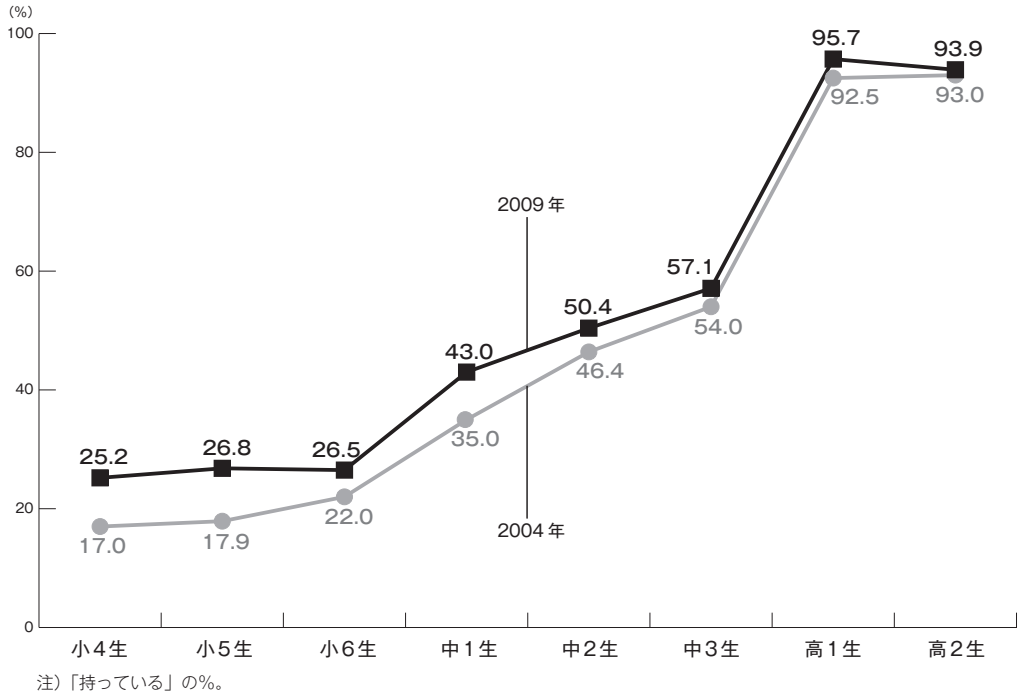
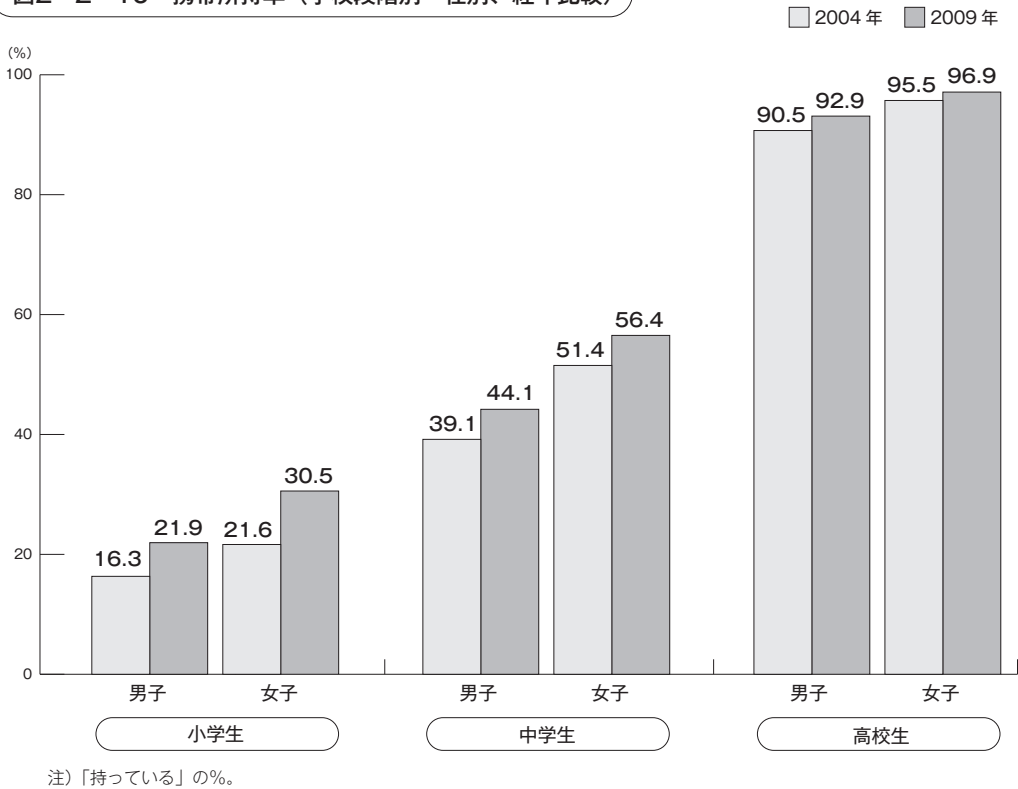


図2-2-10 携帯所持率（学校段階別・性別、経年比較）



5. 携帯電話の利用（2）

小学生は「家族にかける電話」「家族に送るメール」、中・高校生は「友だちに送るメール」として利用している。「インターネット」は高校生が多く利用している。2004年と比べて、子どもたちの家族への通話・メール利用が増えた。

◆携帯電話の利用頻度

子どもたちは携帯電話をどのように利用しているのか。携帯所持者に対して、現在「1日のうちで携帯電話（ケータイ）をどのくらい使いますか」とたずねた。項目は、「家族にかける電話」「家族に送るメール」「友だちにかける電話」「友だちに送るメール」「インターネット」の5つとし、選択肢は「ほとんど使わない」「1～2回くらい」「3～5回くらい」「6～10回くらい」「11～20回くらい」「21～50回くらい」「51回以上」である。

◆家族とのコミュニケーションツールとして使う小学生

2時点間の小学生の「使用している」（「1～2回くらい」＋「3～5回くらい」＋「6～10回くらい」＋「11～20回くらい」＋「21～50回くらい」＋「51回以上」）回答を示したものが図2-2-11である（図2-2-12、図2-2-13も同様）。2009年では、「家族にかける電話」（77.4%）、「家族に送るメール」（60.7%）の利用が多い。2004年と比べても、家族への利用は増えている。同様に、「友だちにかける電話」（2004年36.3%→2009年43.8%、以下同）、「友だちに送るメール」（37.3%→41.7%）も増えた。一方、「インターネット」の利用は減った（21.5%→15.4%）。小学生は、ケータイでインターネットはほとんど使わない。

◆友だちとのメールとして使う中学生

2時点間の中学生の「使用している」回答を示したものが図2-2-12である。2009年では「友だちに送るメール」（86.3%）の利用が多い。2004年と同様、中学生は友だちとのメールのやりとりを中心にケータイを利用している。「友だちにかける電話」は、メールほど利用していない。また、2004年と比べて、「家族にかける電話」（45.8%→59.4%）、「家族に送るメール」（46.1%→58.7%）、「友だちにかける電話」（38.3%→45.7%）の利用が増えた。家族に対して利用する中学生は、所持者のうち6割いる。

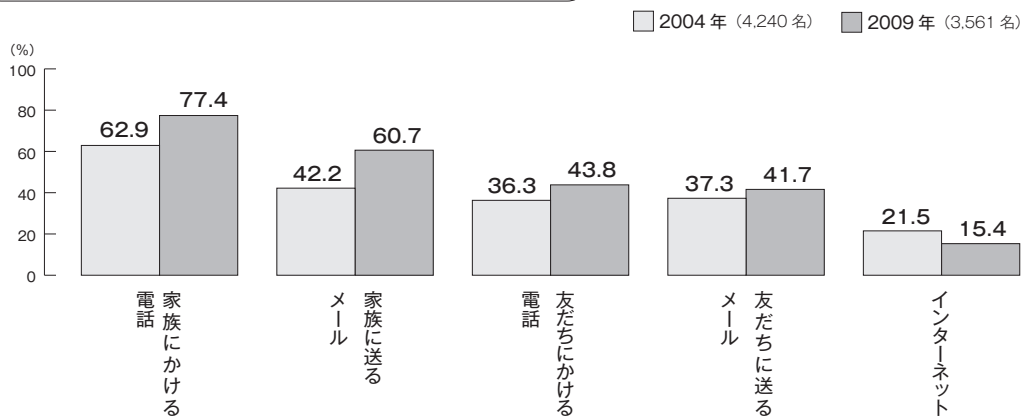
◆メールとインターネットを利用する高校生

2時点間の高校生の「使用している」回答を示したものが図2-2-13である。2009年では中学生同様、「友だちに送るメール」（90.8%）の利用が多い。メール利用が9割に対し、「友だちにかける電話」は3割程度と低い。また、「インターネット」は7割近くが利用している。2004年では54.2%の利用だったが、68.3%に増えた。また、「家族に送るメール」も2004年と比べて増えた（48.4%→57.2%）。「家族にかける電話」は5割が利用している。

◆学校段階によって広がる使用範囲

小学生では、家族との通話・メールとしてケータイが使われる。中学生では、友だちとのメールが多くなる。高校生では、インターネットが加わり、使用範囲が広がっていく。

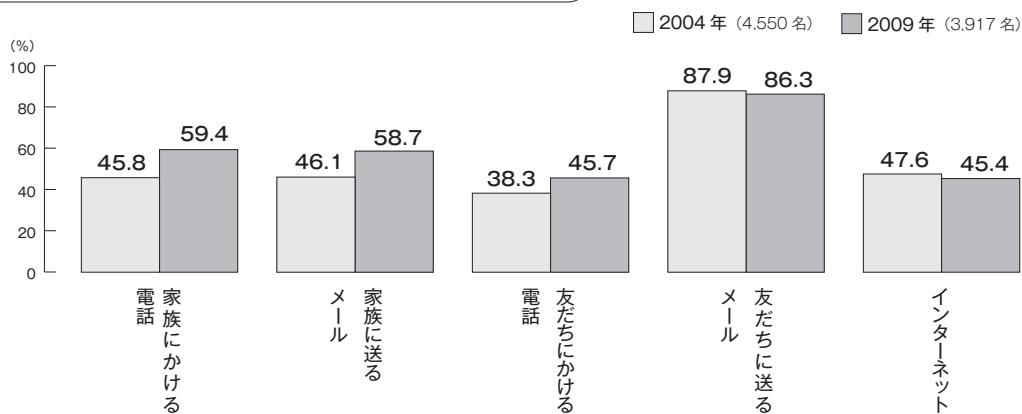
図2-2-11 携帯でしていること（小学生、経年比較）



注1) 携帯電話を「持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「1～2回くらい」+「3～5回くらい」+「6～10回くらい」+「11～20回くらい」+「21～50回くらい」+「51回以上」の%。

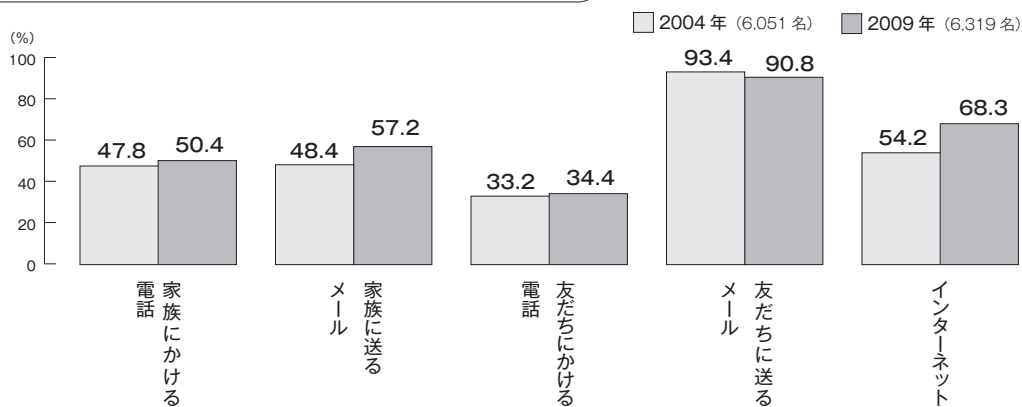
図2-2-12 携帯でしていること（中学生、経年比較）



注1) 携帯電話を「持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「1～2回くらい」+「3～5回くらい」+「6～10回くらい」+「11～20回くらい」+「21～50回くらい」+「51回以上」の%。

図2-2-13 携帯でしていること（高校生、経年比較）



注1) 携帯電話を「持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「1～2回くらい」+「3～5回くらい」+「6～10回くらい」+「11～20回くらい」+「21～50回くらい」+「51回以上」の%。

注3) 2004年・2009年とも、一部の学校で「無回答・不明」が多かったため、学校単位で集計から除外している。

6. 携帯電話の利用（3）

携帯電話を所持する子どもたちの多くが、「携帯電話を使うのが楽しい」「携帯電話がないと今の生活が不便になると思う」と感じている。一方、この5年間で、「電話やメールがこないとさみしくなる」中・高校生は減った。ケータイとの距離を保った意識がみられる。

携帯電話を所持する子どもたちは、どのような意識・行動をとるのか。そこで、「携帯電話（ケータイ）について、次のようなことはあてはまりますか」として、「携帯電話を使うのが楽しい」「携帯電話がないと今の生活が不便になると思う」「電話やメールがこないとさみしくなる」「何もすることがなくなると、すぐに携帯電話を見てしまう」「会ったことがない人と電話やメールでやりとりをすることがある」「食事をしながら携帯電話を使う（2009年新規項目）」「ブログや掲示板などに書き込みをする（同）」の7項目でたずねた。選択肢は「とてもそう」「まあそう」「あまりそうでない」「ぜんぜんそうでない」である。

◆ケータイを使うのが楽しい小学生

2時点間の小学生の「そう」（「とてもそう」＋「まあそう」）の結果を図示したものが、**図2-2-14**である。2009年の小学生は携帯電話の利用に対し、「携帯電話を使うのが楽しい」（68.0%）、「携帯電話がないと今の生活が不便になると思う」（55.3%）と感じている。これは2004年と同様の傾向である。「何もすることがなくなると、すぐに携帯電話を見てしまう」（34.8%）、「電話やメールがこないとさみしくなる」（28.2%）も2004年と同様の傾向である。新規項目の「食事をしながら携帯電話を使う」（84%）、「ブログや掲示板などに書き込みをする」（50%）と小学生の回答は低い。

◆小学生同様ケータイを使うのが楽しい中学生

2時点間の中学生の「そう」の結果を図示したものが、**図2-2-15**である。小学生と同

様に、「携帯電話を使うのが楽しい」（81.8%）、「携帯電話がないと今の生活が不便になると思う」（75.0%）と感じている。これは2004年と同様の傾向である。一方、「何もすることがなくなると、すぐに携帯電話を見てしまう」（2004年60.2%→2009年54.2%、以下同）、「電話やメールがこないとさみしくなる」（51.6%→40.0%）は減った。新規項目では「ブログや掲示板などに書き込みをする」（22.9%）が2割を超えている。

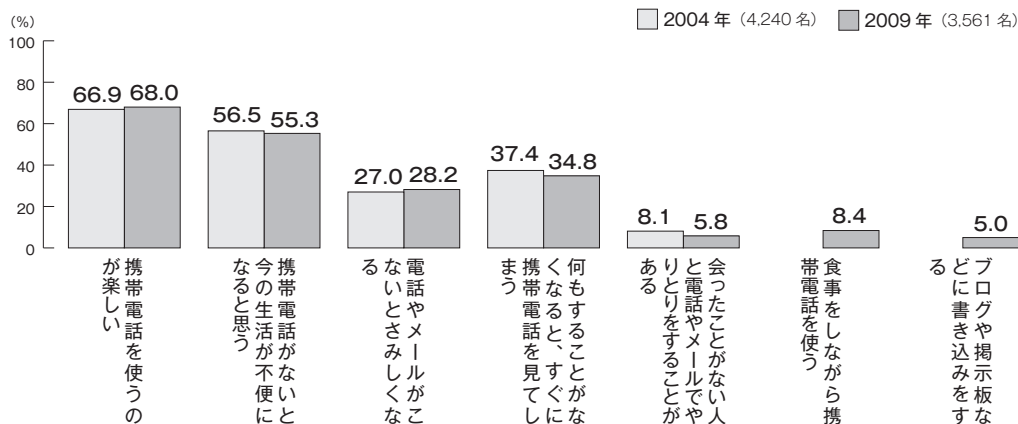
◆ケータイがない生活を不便に感じる高校生

2時点間の高校生の「そう」の結果を図示したものが、**図2-2-16**である。「携帯電話がないと今の生活が不便になると思う」（85.3%）、「携帯電話を使うのが楽しい」（82.9%）と感じている。「何もすることがなくなると、すぐに携帯電話を見てしまう」（64.2%）と2004年と同様の傾向である。「電話やメールがこないとさみしくなる」（52.2%→44.3%）は減った。新規項目では「ブログや掲示板などに書き込みをする」（31.7%）、「食事をしながら携帯電話を使う」（15.0%）となっている。

◆ケータイに依存しない楽しみ方

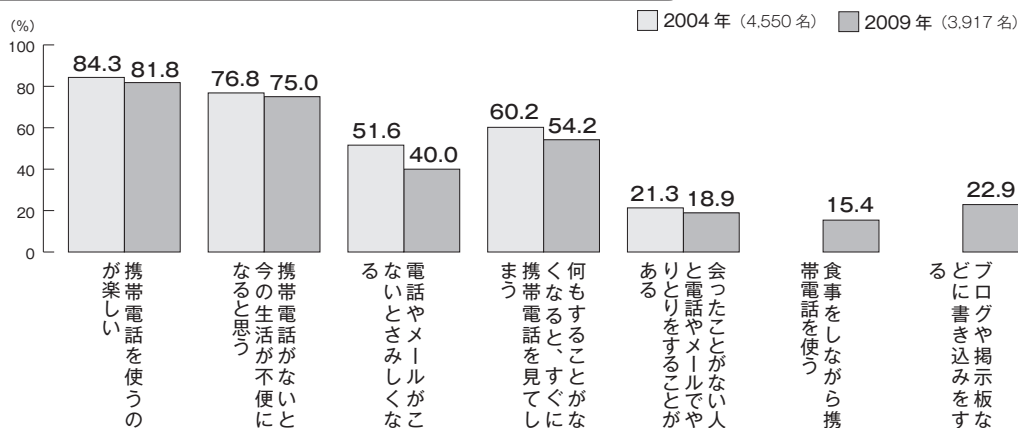
子どもたちは、ケータイ利用の楽しみ、生活の利便性を強く感じている。食事の時間もケータイを手離せない子どもが中・高校生で15%もいる一方で、電話やメールがこないさみしさは減少している。携帯電話が誰かとのコミュニケーションツールとしてよりも情報を入手・発信するためのツールとしてとらえられるようになってきているのかもしれない。

図2-2-14 携帯についてあてはまること（小学生、経年比較）



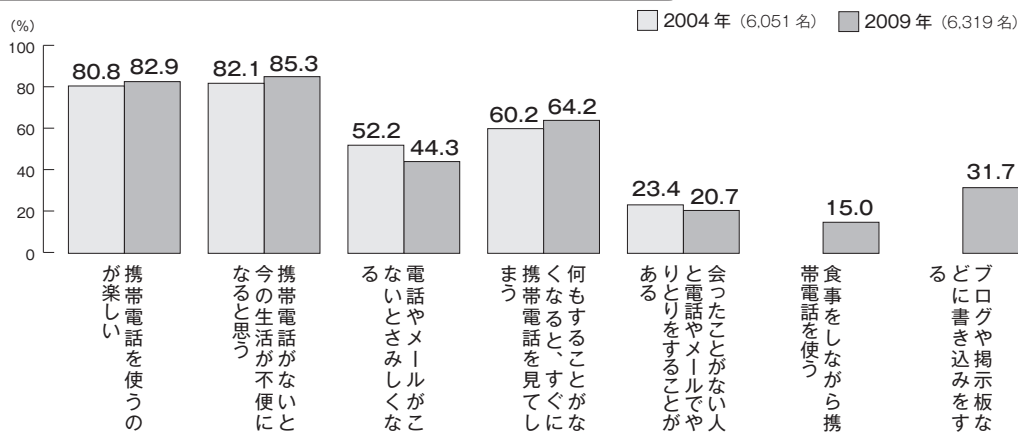
注1) 携帯電話を「持っている」と回答した人のみ対象。
注2) 「とてもそう」+「まあそう」の%。

図2-2-15 携帯についてあてはまること（中学生、経年比較）



注1) 携帯電話を「持っている」と回答した人のみ対象。
注2) 「とてもそう」+「まあそう」の%。

図2-2-16 携帯についてあてはまること（高校生、経年比較）



注1) 携帯電話を「持っている」と回答した人のみ対象。
注2) 「とてもそう」+「まあそう」の%。